

タイトル：「漢字字体規範史研究(第二期)」(平成 22 年度第 1 回研究会)

日時：平成 22 年 10 月 13 日(水曜日) 午前 10 時より午後 5 時

場所：本郷サテライト 7 階会議室

出席者：石塚晴通(主査・AA 研共同研究員・北海道大学名誉教授)、池田証壽(AA 研共同研究員・北海道大学)、岡墻裕剛(AA 研共同研究員・北海道大学)、白井純(AA 研共同研究員・信州大学)、高田智和(AA 研共同研究員・国立国語研究所)、小池和夫(字体史研究会)、坂本昭二(龍谷大学古典籍デジタルアーカイブセンター)、豊島正之(AA 研)

1. 坂本昭二「古文献の非破壊分析 -- 紙墨を中心に」

李柏文書(楼蘭出土・4 世紀)・敦煌文書・日本中世寺院聖教類を中心に、光学的な非破壊観察によって、紙の素材の繊維・繊維の方向性・元素組成・坪量等、墨の粒子計測などのキー情報を取得する技術を解説し、キー情報による文書分類と地域・時代分類の相関を示した。

2. 高田智和「HNG 収載各典籍の、漢字字体規範史の視点からの文献解題」

現在の HNG データベースには、その構築思想の明示が無く、字体標準などの基礎概念の説明も欠けており、且つ典拠文献の解題が不足している事を指摘し、これらの文書化の構想を論じた。

3. 研究打ち合わせ

今後の HNG データベース構築、及び高田発表で指摘された必要な文書化の進行に就て打ち合わせた。

(文責・豊島正之)